「審査者のコメントに対する回答」と「修正対照表」の作成について

投稿者各位

『中京大学心理学部・心理学研究科紀要』編集委員会

投稿論文を修正する際には，下記の留意点ならびに別紙の見本を参考にして，「審査者のコメントに対する回答」と「修正対照表」を作成し，修正論文に添付してくださるよう，お願いします。 なお下記の留意点が十分配慮されていれば，別のフォーマットをお使いいただいても構いません。

留意点

(1)「審査者のコメントに対する回答」は審査者ごとにまとめ，各審査者のコメントの内容とそれに対する回答, および「修正対照表」の該当番号がわかるようにして下さい。

(2) 審査者から指摘があった点以外で大幅な修正がある場合は，審査者のコメントに対する回答に続けて，修正の理由等を簡素かつ明快に説明して下さい。

(3)「修正対照表」は 3 列に分け，第 1 列に参照用の番号，第 2 列に修正前の内容・箇所，第 3 列に修正後の内容・箇所を記入して下さい。また修正した箇所が明確にわかるよう，該当箇所に下線をつけるなどして下さい。

(4) 原則として修正部分の多寡にかかわらず，すべての修正箇所について抜き書きをして下さい。ただし，大幅な書き換えとなる箇所については，「審査者のコメントに対する回答」の中で修正の趣旨を述べ，第 3 列には修正後のページと行番号を記入するだけで構いません。また，論文全体に頻出する同一語句を修正する場合には，一回の記載で結構です。

(5) 図表の修正については，修正内容がわかるように説明して下さい。

以上

別紙 1

「審査者のコメントに対する回答」の見本

【審査者 A に対して】

(1)「自己制御機能といくつかの要因との相関関係を検討した研究であるが，要旨では，因果関係を調べたとの記述になっている」とのコメントについて

ご指摘の通り，本研究は因果関係を調べたものではなく，あくまで相関関係を検討したものですので，不適切な記述でした。ご指摘に従い，要旨から「因果関係を調べた」との記述を削除し，時間的に先行する要因との相関関係を調べたことがわかるように訂正しました(修正対照表の 1)。

(2)「高齢の調査対象者に対して，その運転能力と危険感知能力に関する面接調査を行なっているが，そこでの質問項目の内容は適切に伝わっていたと言えるか。また，そのことを確認したか」とのコメントについて

ご指摘の点について，調査対象者の理解を助けるために面接調査の際に行ったことを加筆しました(修正対照表の 5)。

(3) 「本文で引用されている Bingushi & Yukumatsu (2005) が文献欄にない」とのコメントについて

文献の記載漏れがあり，申し訳ございません。ご指摘に従い，引用文献欄に追加しました(修正対照表の 6)。

【審査者 B に対して】

(1)「p.1 の 20 行目から 24 行目までは論文の主要テーマと関連の浅い記述であるから不要ではないか」とのコメントについて

ご指摘に従い，削除しました(修正対照表の 2)。

(2)「調査協力者の男女別人数を記載すべきである」とのコメントについて

ご指摘に従い，男女別の人数を本文に記載しました(修正対照表の 3)。

(3)「絶対値が 1.0 を超える標準偏回帰係数があるが，転記ミスということはないか」とのコメントについて

統計ソフトウェアの出力を確認したところ，転記ミスはありませんでした。

【審査者 C に対して】

(1)「回転後の因子の寄与は，相関行列の固有値とは異なるので，固有値を回転後の因子負荷行列の各因子に対応させて表に記載するのは不適切である」とのコメントについて

ご指摘に従い，Table3 中の「固有値」を「寄与」とし，数値を修正しました(修正対照表の 4)。

以上

別紙 2

「修正対照表」の見本

番号	修正前	修正後
1	要旨 3 行目 自己制御機能がどのような要因に規定されているかについての因果関係を調べた。	要旨 3 行目 自己制御機能と先行要因との間にどのような関連があるかを調べた。
2	p.1, 20 行目 ゴルトンは回帰分析と相関の概念を提案した研究者としてよく知られている。彼はダーウィンの影響を強く受け，知的能力の個人差に関心を持ち，博覧会などの場で大勢の人にテスト・バッテリーを実施したことでも知られる。	削除
3	p.4, 35 行目 回答不備の者を除き，最終的な調査協力者は 350 名であった。	p.4, 30 行目 回答不備の者を除き，最終的な調査協力者は 350 名(男性 170 名，女性 180 名)であった。
4	TABLE 3 表中の「固有値」という表記の誤り。	TABLE 3 表中の「固有値」を「寄与」とし，数値を修正した。
5	p.8, 27 行目 一人の調査対象者について，約 90 分程度の時間を取り，半構造化面接による調査を行った。	p.8, 32 行目 一人の調査対象者について，約 90 分程度の時間を取り，半構造化面接による調査を行った。面接の際，調査対象者が質問内容を十分に理解できるように，質問項目を見やすく記述したカードを提示しながら質問を行った。
6	引用文献 Bingushi & Yukumatsu (2005) が文献欄にない。	引用文献に以下を追加 Bingushi, K., & Yukumatsu, S. (2005). Disappearance of a monocular image in Panum's limiting case. *Japanese Psychological Research*, *47*(3), 223-229.